まちのニュース OAMISHIRASATO NEWS

町内の話題をお届けします

宮間選手をみんなで盛り上げよう！

応援する会が発足

▲今後の意気込みを話す内山会長

本町の四天木出身で、女子サッカー日本代表（通称：なでしこジャパン）のキャプテンを務める宮間あやさんを応援しようと、町民の有志が「宮間あや大網白里町応援する会」を立ち上げ、4月15日、大網白里アリーナで発会式を行いました。

この会は、会長の内山清さんが「宮間さんを盛り上げたい」という思いを持っていたところ、同じ思いを持つ人が集まり、実現。内山会長は宮間さんが地元に帰った折には、「応援する会を作りたい」と話し、本人の快諾を得たといいます。

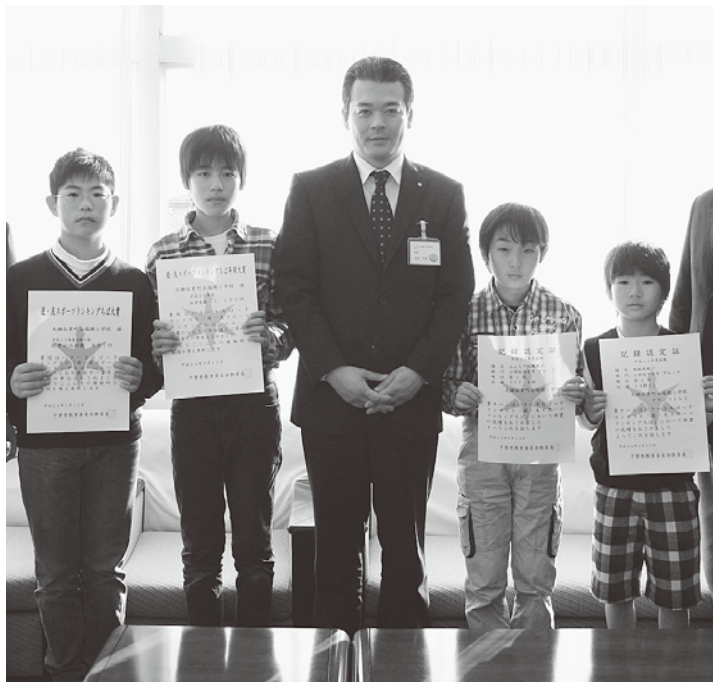
「応援する会」では今後、ロンドンオリンピックの開催に合わせて、パブリックビューイングの実施や横断幕の掲揚など、応援体制を整えていく方針。内山会長は「みんなで力を合わせて応援し、キャプテンである宮間さんを盛り上げていく。今後、500人規模の会員を集めたい」と意気込みを話しました。

また、宮間さんの小学校一年生のときの担任で、現在も交流があるという内山マサさん（南今泉）は「体が小さかったけれど、できなかった縄跳びが次の日にはできるようになっているなど、当時から努力家だった。世界のあやちゃんになったことをうれしく思う。これからも長く応援していきたい」と、思い出とともに、入会に当たっての思いを話しました。

「応援する会」では、現在会員を募集しています。詳しくは事務局（☎(72)3393）まで、問い合わせください。

2年連続で大賞に

瑞穂小学校


▶児童代表が町長に受賞を報告

瑞穂小学校が、昨年に続き、県教育委員会のいきいきちばっ子コンテスト「遊・友スポーツランキングちば」の後期・年間大賞を受賞しました。3月15日、県教育委員会から表彰され、金坂町長に受賞を報告しました。

このランキングは、児童が7種目の運動に取り組み、県内の学校と成績や記録の申請回数を競います。瑞穂小学校は、年間で3，195回の記録を申請。2位の学校に大差をつけて、堂々の年間大賞受賞となりました。児童は休み時間や体育の時間などを利用し、学年ごとにローテーションで7種目すべてに挑戦。精力的に取り組んできました。

金坂町長は「毎日の積み重ねが大切。勉強も運動もがんばってほしい」と激励しました。

歩きながらまちをきれいに

大網中学校

▶ごみを拾いながら歩く生徒

大網中学校の1年生が、3月16日、ウォークラリーを通した美化活動を行いました。

これは、協力性や責任感、思いやりの心を育むとともに、美化意識を向上させようというもの。生徒は3つのコースに分かれ、道路に落ちているごみを拾いながら、ゴールを目指しました。このウォークラリーは、ごみを多く集めたチームが有利になるルール。生徒は地図とごみ袋を手に、競い合ってごみを拾いました。

また、当日は平日にもかかわらず、40人ほどの保護者が協力。交通誘導などで生徒の活動をサポートしました。

終了後、参加した吉野和樹さんは「町をきれいにしたことをうれしく思う」、西本悠樹さんは「目立たないところにごみが捨てられやすいと分かった」、橋村夏美さんは「仲間と協力し、団結して取り組めた」と感想を寄せました。

大きくなって戻ってきてね

大網東小学校

▲一斉にサケを放流する児童

大網東小学校では、子どもたちが、生き物や環境について、少しでも関心が持てるようになればと、サケの稚魚を卵からかえす「サケの里親事業」を実施しています。この一環として、3月12日に横芝光町の栗山川で行われた稚魚放流式に参加。児童代表が、バケツから稚魚を放流しました。

地元の漁業組合の協力で実施された放流式には、県内の学校から、多くの児童たちが参加。自分たちが育てた稚魚と、漁業組合が育てた稚魚を一緒に放流しました。

今回参加した、佐久間直樹さんは「元気に川を下ったサケが、4年後に卵を産むために大きくなって戻ってくるのが、楽しみ」と感想を語ってくれました。

身近な素材で宇宙を理解

増穂中学校教諭・篠原孝司さん

中学校・高等学校レベルの理科教育における新しい発想と工夫事例に対して贈られる「東レ理科教育賞」を、増穂中学校の篠原孝司教諭が受賞しました。

篠原教諭は、イメージがわきにくい、天体の大きさや距離を具体的に理解してもらおうと、バランスボール・コショウの粒やビーズといった身近なものを使用し、天体の大きさの比較や距離などが生徒に理解しやすいように工夫。天体学習での空間認識への理解を深める工夫が認められ、受賞につながりました。

授業では「黒板に書いたことを写すだけでは飽きてしまう」と、必ず一時間に一回は物を使い、手に触れて考えさせる時間を取り入れている篠原教諭。「この賞を受賞し、論文が全国の教育者に配られることで、全国の子どもに質の高い教育を提供できる」と受賞の意義を話してくれました。

また、増穂中学校では、生徒会の顧問でもある篠原教諭。生徒会が主体となって、生徒が節約に取り組む「フィフティ・フィフティ活動」を通じ「エネルギーへの関心は持ってくれたが、まだまだ本質的なことは分かっていない」と、今後、エネルギー教育に取り組む意向を話してくれました。